

3 「思考・判断・表現」の評価をめぐって

現高F 現中H先生に質問があるのですが、中学校では「思考・判断・表現」の評価はどのようになさっていますか。

現中H 私はリテリングとリライトングをしていて、題材の終わりに教科書の内容を要約して自分の感想を述べることにしています。「思考・判断・表現」の評価では、要約と感想がそろっていればB。さらに、その質・量が優れていればA、どちらかが欠けていればCという評価をしています。ただ、同じ学年を担当している別の教師はリテリングやリライトングはしておらず、定期テストに「思考・判断・表現」を評価する問題を設けてそれで評価しています。私の場合、学年で足並みをそろえる必要があるので、その定期テストの評価にリテリングとリライトングの評価を加えるようにしています。

司会（元高S） 高校ではどうしているのですか、現高F先生。

現高F 私の学校は、私立ということもあって新指導要領の評価は使っていません。だから「思考・判断・表現」の評価はしていないんです。

現中H 新指導要領では全ての教科が学びの三本柱で統一されています。小中高ともです。ただ現場はかなり混乱しています。「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は一体のものだと文科省の指導資料には書いてありますが、現場の教師はそうした資料も読んでいない人が多く、自分の考えで評価をつけている。提出物を出しているとか授業態度とかで「主体的に学習に取り組む態度」を評価するようなことも多い。でも、「思考・判断・表現」の評価の対象になる言語活動に主体的に取り組んだかというのが「主体的に学習に取り組む態度」の評価になるわけで、その点を誤解している先生が多いですね。

現高S 高校でも観点別評価をどうするかで議論していますが、先生方は困っていると思います。でも、外枠ばかり決めても、それが子どもの学習意欲につながっているのでしょうか。

大学K 生徒の学習意欲は下がっているかもしれませんね。今の中学校ではテストで100点を取っても評価は3というようなことが起こります。「提出物を出さない」などの理由で学習態度が悪いと評価されると、テストの点数がよくてもこの内申書では行きたい公立高校には行けないということになります。三本柱ということで3つの項目の平均を出そうとしているから、どれか突出してできても平均化されてしまいます。子どもの個性というものが評価さ

れない仕組みになっている。本来はそういう趣旨の評価でないはずでしょう。例えば「知識・技能」がよくななくても「主体的に学習に取り組む態度」がAなら評価はAでいいという考え方だったと思う。ハワード・ガードナーの「多重知能」で、ある部分の知能が高ければそれは「知能が高い」と判断できるという考えが示されていますが、そうではなくて全ての面で平均して高くなければ「高い」と評価されない。満遍なくできる子しか「できる」と評価されないわけです。それはほんの数パーセントの子どもでしょう。だから現高F先生の学校で新指導要領の評価を取り入れていないのは、個性を生かす教育を目指すとするならば当然のことのように思いますね。指導要領を丁寧に守って評価することでどれくらいの方が幸せになるのでしょうか。もちろん「知識・技能」だけの評価するのがよいわけではないですが、複数の基準を設けたことで誰も評価されない仕組みになってしまったのではないのでしょうか。文科省には、指導要領が変わるたびに「あれもできるようになれ」「これもできるようになれ」とどんどん「できるようになるべきこと」が増えていきますけれど、それでどれくらいの方が幸せになるのですかと問いたいですね。

現高F 「知識・技能」を評価するときは従来のテストで済んでいたけれど、スピーチやプレゼンテーションなどのパフォーマンステストをするようになって、「知識・技能」以外の観点を作らなくてはいけないということで「思考・判断・表現」の観点ができたのではないかと考えているのですが、そうではないのでしょうか。

大学K そうだと思います。東京都でスピーキングテストが導入されているのもそうですが、要はプロダクティブな活動をさせたいんですよね。だから「思考・判断・表現」に「表現」という観点が入っているわけですが、ただ「知識・技能」を求めたうえでパフォーマンステストもできるようになれというのは、先ほど言った「できるようになるべきこと」が雪だるま式に増えているようにも感じます。そもそもパフォーマンステストができるようになるための体系的な指導を中学校ではしているのでしょうか。

現高F パフォーマンステストの評価は難しいと思います。今の学校現場での評価を見ていると、評価方法だけはしっかりしているけれど、方法と内容が一致していないように見えるんです。評価は子どもに大きな影響を与えるので、わけのわからない評価をされると子どものモチベーションが下がります。だから自分の学校では取り入れていない。それに、先生方の話を聞くと、新しい授業の在り方を考えるよりもどうも今までの授業でやっていることを変えずに、それをお役所の言葉に合わせていくといった感じなので、それはおかしいんじゃないかと思っています。

現中H 先日「定期テストで86点取っているのになぜ「3」なのか」という保護者からのクレームがありました。普通に考えれば定期テストで90点以上取っていれば「5」だし、80以上点取っていれば「4」ということになる。それなのになぜ80点以上取っているのに評価が「3」といったことが起こるかという、いろいろと自分が用意した評価資料のデータを教師が生そのまま取り入れているからなんです。保護者から評価がよくない理由を問われると、例えば「この提出物が出ていないから」といったことを教師は答える。しかし、それは「木を見て森を見ていない」評価なのではないかと思います。提出物云々は木の部分で、テストで80点以上取っているならそれをしっかり見なければ「森を見ていない」評価ということになるでしょう。もうひとつはテスト自体の問題がある。「知識・技能」を測るだけでなく、英文を読んで要点を捉えるとか、タイトルをつけるとしたらどれがいいとか、例えば先生が遠足の説明をしたとすると、先生が言わないことで大切なことは何かなどを問うのが「思考・判断・表現」を問う問題だと思うのですが、そうした工夫があまり見られません。また、先ほど元中D先生もおっしゃいましたが、「主体的に学習に取り組む態度」についてはプラス志向で見たほうがよいと思います。「主体的に学習に取り組む態度」で見るべきものがあつたらCの生徒はBにする、Bの生徒はAにするという肯定的な評価を心がけるべきだと思います。どんなにがんばっても評価がCだとすると、本当にやる気を失ってしまう。子どもを力づける評価をしなければならぬと思います。自分の決めた評価資料を全て取り入れようとする、全体を見たときに何かおかしいことになってしまう。「木を見て森を見ない」評価になってしまうというのがいちばんの問題だと思います。

現高S 昔は都立高校の入試でも内申点は抜きにテストの成績が良い生徒は入れていたと思うのですが、今はそういうのはないのですか。

大学K ないですね。今はテストだけの評価はしていません。現高F先生と現中H先生の話からわかるのは、評価規準を反映するような正しい評価の方法がわかっていないということだと思います。それでおかしな方法でもいいから評価してしまえということになっている。また、コロナのことを考えると「思考・判断・表現」も「主体的に学習に取り組む態度」も対面形式の授業を前提にしていると思います。どちらも目の前に子どもがいて観察できなければ測るのがとても難しくなります。コロナの時代のオンライン授業の形式だと新指導要領が求めるものは測りようがないといったことにならないかということがずっと疑問なんです。